

# 第51回

## 新千歳空港の24時間運用に関する 苫小牧市地域協議会会議録

日 時：令和3年10月22日（金）18時30分開会  
場 所：J F E リサイクルプラザ 苫小牧

第51回新千歳空港の24時間運用に関する苫小牧市地域協議会

- ・日 時 令和3年10月22日（金）18：30～20：00
  - ・場 所 JFEリサイクルプラザ苫小牧
- 

・議 題

- (1) 新千歳空港における最近の動向について
  - (2) 令和2年度航空機騒音測定結果等について
  - (3) 住宅防音対策の進捗状況等について
  - (4) 地域振興対策の進捗状況等について
  - (5) 新千歳空港周辺地域振興基金について
  - (6) 苫小牧市植苗・美沢地区土地利用計画の次期計画策定について
  - (7) その他
- 

◎地域委員 出席者（17名）

◎北海道（7名）

◎公益財団法人 新千歳空港周辺環境整備財団（2名）

◎苫小牧市（7名）

<オブザーバー参加>

◎北海道エアポート株式会社（4名）

## 1. 開 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第51回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を開催いたします。

開会に先立ちまして、去る1月22日に沼ノ端地区の地域世話人でありましたAさんが、また、9月8日には植苗地区の委員でありましたBさんがご逝去されました。

お二方とも、幅広い分野において本市のまちづくりに多大な貢献をされておられますので、故人のご冥福をお祈りするため、黙禱をささげたいと思います。

皆様方は、その場でご起立をお願いいたします。

黙禱。

[ 黙 禱 ]

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 黙禱を終わります。

ご着席ください。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に基づき進めさせていただきます。

## 2. あいさつ

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、協議会の開催に当たりまして、北海道の交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 皆様、おぼんでございます。

本日は、お忙しい中、また、お仕事でお疲れのところ、地域協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様方には、日頃から新千歳空港の24時間運用、また、道の航空行政にご理解とご協力を賜りまして、重ねて感謝を申し上げます。

さて、新千歳空港においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いまして、昨年からは国際線の旅客数がゼロとなるなど、令和2年度の旅客数が令和元年度に比べ7割減の約644万人となりまして、旧千歳空港時代の1986年度以来、34年ぶりに1,000万人を割り込んだという残念な状況であります。

しかしながら、この秋を迎えまして、新型コロナウイルス感染症については、新規感染者数、それから、病床使用率等についても大幅に改善され、全国における緊急事態宣言が解除されるとともに、国においても行動制限の緩和が行われるというところでございます。

このような状況を受け、道では、まずは、北海道を6つの地域に分けて、観光施策を当面進めようと思っております、この6つの圏域の中の移動を促すための同居者による旅行支援、また、公共交通機関を利用した場合の移動支援に取り組むということも15日から再開させていただきました。

今後は、引き続き感染症の再拡大の防止に努めながら、道内、そして道外への移動など、

航空需要を段階的に拡大するということが大事だと思っておりますので、この新千歳空港に活気が戻ってくるよう、最大限取り組んでまいりたいと考えております。

新千歳空港の24時間運用の推進には、地域の皆様のご理解、ご協力が何よりも大切と認識しております。このコロナ禍においても、30枠合意において皆様にお約束いたしました住宅防音対策、そして地域振興対策につきまして、苫小牧市、周辺環境整備財団、北海道エアポート株式会社との連携の下、着実に進めてまいりたいと考えております。

本日の地域協議会では、皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、苫小牧市の副市長からご挨拶を申し上げます。

●苫小牧市（副市長） おばんでございます。

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらず、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

地域協議会委員の皆様におかれましては、新千歳空港の24時間運用に関しまして、常日頃からご理解とご協力をいただいておりますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

冒頭、Aさん、Bさんの黙禱をさせていただきました。私自身も大変お世話になったお二方でございます。本当に残念な気持ちがまだ続いておりますけれども、改めてご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、新千歳空港を取り巻く状況につきましては、依然として厳しい状況でございますが、本日、オブザーバーとして出席をしていただいております北海道エアポート株式会社におかれましては、韓国仁川空港の運営会社と連携協定を締結されるなど、コロナ収束後を見据えた様々な取組が進められております。

本市といたしましても、新千歳空港のいち早い航空需要の回復に向けて、感染の再拡大防止に努めるとともに、関係機関と連携を図りながら、アフターコロナに向けた様々な取組に努めてまいりたいと考えているところでございます。

また、皆様とお約束をさせていただいております住宅防音対策と地域振興対策につきましては、北海道や新千歳空港周辺環境整備財団と連携をしながら進めているところではございますが、今後も、皆様からのご意見等を賜り、スピード感を持って着実に実施をしてみたいと考えているところでございます。

改めまして、委員の皆様には、地域協議会の開催に対しますお礼と協議へのご協力を心からお願い申し上げまして、簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 本日は、新型コロナウイルスの再拡大防止対策として、手指の消毒や検温、会場内の換気、人と人との距離の確保など、新北海道スタイルの取組を実践しての開催となります。

なお、本日出席された方で、万が一、感染が判明した場合には、お手数でございますが、

苫小牧市空港政策課までご連絡願いますよう、よろしくお願いいたします。

### 3. 地域世話人の選出

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 次に、次第3の地域世話人の選出についてでございます。

協議会運営要領では、地域委員の互選により選出となっておりますが、いかがいたしましょうか。

C委員、お願いします。

●C委員 事務局で案がありましたら、よろしくお願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） はい。

事務局からの提案といたしましては、植苗地区と勇払地区は留任、沼ノ端地区はD委員をお願いしたいと考えておりますが、いかがいたしましょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 異議なしというご発言がありましたので、それでは、3地区の世話人につきましては、植苗地区がE委員、沼ノ端地区がD委員、勇払地区がF委員でございます。

今後とも、よろしくお願いいたします。

### 4. 議 事

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、次第4の議題に入らせていただきます。

（1）新千歳空港における最近の動向についてを議題といたします。

北海道及び北海道エアポート株式会社から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） お配りしております資料の中で、まず1ページ、資料1-1をご覧くださいませでしょうか。

新千歳空港における最近の動向について、前半、私からご説明させていただきます。

まず最初に、（1）令和3年夏ダイヤにおける深夜・早朝時間帯定期便等の状況ということで、今年の3月から10月までのこれまでの実績と、10月は若干日にちが残っておりますので、今後の予定というところでございます。

今年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、皆様ご存じのとおり、便数が大幅に減少しているところでございます。一番活用されていました令和元年度と比べて12便減少しまして、1日最大4便となっております。表には5便あるのですが、1日あたりでは最大で4便が使用しているところです。

続きまして、（2）をご覧ください。

これは、10月31日から来年の3月26日までの冬ダイヤの予定でございます。

現時点の予定ですが、6便となっております。昨年度ですとか、あとは、今年の夏ダイヤから1便増えまして、最大6便となっております。

続きまして、深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便についてでございます。

こちらにつきましても、ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、昨年から今年にかけて全く運航がないというような状況でございます。

道といたしましては、これらの状況を受けまして、深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されますよう、新型コロナウイルス感染症の収束を見極めつつ、航空路線の需要を段階的に高めていくことができるように今後取り組んでいきたいと考えているところでございます。

以上になります。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長）引き続き、お話しさせていただきます。

本日は、このような説明の場を設けていただきまして、ありがとうございました。

改めて申し上げるまでもございませぬけれども、空港運営は、地域の皆様のご理解とご協力がないと円滑に進まないと思っております。そういう意味で、これから、適宜、またお話をさせていただいて、我々の業務についてご支援、ご指導いただければと思っております。よろしく願います。

それでは、お手元の新千歳空港の近況という資料をご覧ください。

ここには、2021年の新千歳空港の発着便数並びに旅客の輸送実績を書いております。先ほどご説明がございましたけれども、コロナ禍の影響もありまして、国内線については、4月以降、国の緊急事態宣言の発令を受け、前年の大幅な需要減からの反動で一部増加はいたしましたけれども、コロナ前の2019年にはまだ到達しておりません。国際線については、2020年の3月下旬から全ての旅客便が運休しておりますけれども、道産品に対する需要を受けて、台湾、香港などへの貨物便が平均で1日2便から3便ぐらい動いております。

次に、旅客輸送の実績でございます。

国内旅客数は、3月以降、発着便数と同様に前年の反動で増加傾向でしたけれども、9月は7か月ぶりに前年同月を下回りました。コロナ前の2019年比では、7月から8月を除き40%に満たない割合で推移して、厳しい状況が続いております。

国際線も、20年3月下旬から全便運休して、21年9月まで16か月連続ゼロを記録しておりますが、緊急事態宣言が明けたこの10月から、我々の肌感覚としては、かなり旅客が戻ってきている感じでございます。速報値等はこれから出てまいりますけれども、今日など、修学旅行生が2、3組、入ってございました。これから少し上り調子になっていくのではないかと期待しているところでございます。

あとは、資料にはございませぬけれども、この間、新千歳空港の運営に関する協議会ということで、苫小牧市の経済界の皆様、自治体の皆様、観光協会の皆様等のオピニオンの方に集まっていただきまして、5月26日、それから、今度、11月4日に開催する予定です。

これまで、2次交通対策とか観光振興策についていろいろご意見を伺い、皆様と情報共

有しながら空港運営を進めていくところでございます。

それから、コロナ対策なのですが、北海道のほうで北海道スタイルの安心宣言がございまして、我々も国内線にサーモグラフィーを設置したり、PCR検査のキットの自販機を11月初旬には設置するような形で、今、対策を進めております。

そのほか、空港で職域接種を実施しまして、9月、10月で大体2,300名の方に、接種をしていただきました。千歳市をはじめ、空港従事者、それから、家族、近隣にお住まいの方に接種をしていただいております。

そういう中で、10月から、少し手応え感が出てまいりましたので、コロナを終えた後の観光振興策などにも力を入れて、これから進んでいきたいと思っております。

皆様のご支援をよろしく申し上げます。ありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。

ご意見、ご質問につきましては、最後のその他でも行いますので、よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、続きまして、（2）令和2年度航空機騒音測定結果等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、3ページ、資料2-1をご覧ください。

令和2年度の民航機の騒音測定結果等についてご説明をさせていただきます。

まず、下の表をご覧ください。

航空機騒音の測定局は、苦小牧市内におきましては、北海道が設置しました植苗局等の9局と、苦小牧市が設置しております琥珀荘局等の6局の計15局がございまして。

なお、苦小牧市の測定局においては、一番下の糸井局が区域外ではございますが、昨年の4月から新たに設置をされたところでございます。

表の右側になります。

年間L d e n 値と民航L d e n 値を記載しております。

年間L d e n 値につきましては、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機騒音を集計した結果となります。また、色がついております民航L d e n 値につきましては、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果となっております。

令和2年度の集計対象日数は117日となっております。

令和2年度の苦小牧市における測定結果でございますが、表の太枠で囲った部分の左側になります。令和元年度と比べまして、発着便の総数が減少したということもございまして。

ので、年間L d e n値、民航L d e n値、両方とも全ての測定局におきまして前年度の結果を下回る結果となりました。

また、全ての測定局で対策の目安となります環境基準を下回っているというところがございます。

資料2-1につきましては、以上となります。

続きまして、資料2-2、4ページです。

令和2年度の遅延便の深夜・早朝時間帯の使用状況についてご説明をさせていただきます。

この資料において、遅延便とは、30枠以外の便で出発ないし到着が予定より遅れたことにより深夜・早朝時間帯を使用した便のことを指しております。

まず、航空会社別の便数でございます。

令和2年度につきましては、発着便の総数が減少したということもありまして、遅延便は、前年度の323便から大幅に減少しまして、37便となっております。航空会社別では、JALが13便ということで一番多く、全体の35%を占めているところです。

続きまして、2番、遅延理由別の便数となります。

令和2年度は、機材故障による遅れが一番多く、15便、全体の41%となっております。こちらは、例年、天候が一番多いところですが、昨年度につきましては、機材故障が多かったところがございます。

3番でございます。時間帯別便数についてですけれども、遅延便がどの時間帯に離着陸しているかを示しております。例年、一番左端の22時から22時19分、ちょうど午後10時を超えた辺りが一番多くなっておりまして、令和2年度につきましても、18便、約半分の49%となっております。

22時59分までを足し合わせますと89%という状況でございます。

続きまして、5ページ、資料2-3になります。

千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について示しております。

本資料につきましては、着陸方向については、千歳側は旭ヶ丘局、苫小牧市側は植苗局を代表地点としまして、双方の測定局での騒音の計測値から判断しております。

上の表には、7時から21時59分と22時から6時59分、下の部分がいわゆる深夜・早朝時間帯という形になりますが、そこで分けまして表示をしているところがございます。

令和2年度の着陸数を月別で示しておりますが、一番右側の合計の欄を見ていただきまして、全体で千歳側から着陸したものが2万1,605回、苫小牧市側から着陸したものが6,391回ということで、割合では、千歳側が約77%、苫小牧市側が約23%となっております。一昨年は千歳側からの着陸が62%でしたので、今年は千歳側からの着陸が一昨年よりも多かったという結果になっております。

真ん中の行、7時から22時までを見ていただきまして、ここも合計2万1,434回、6,353回というところで、割合は同じく77%と23%ということになっております。



一番下の段になります。22時から6時59分、深夜・早朝時間帯ですけれども、千歳側が171回、苫小牧側が38回ということで、深夜・早朝時間帯に限っていいますと、千歳側から降りたのが82%、苫小牧市側から降りたのが18%というような結果となっております。

離陸の方向についてですけれども、千歳側から離陸する飛行機につきましては、東京方面へ向かう場合、千歳で旋回して、苫小牧側に南下するものが多いというところがありますので、音声で判定すると、双方の測定局で計測されるようなケースが多く、計測値から正確な離陸回数が判断できないところがございます。昨年、初めてこの資料を出させていただいたのですが、そのときには、音声から見た着陸と離陸と両方載せていたのですが、どうしても離陸のほうの数字が増えるというような傾向がございまして、今年につきましては、音声データ上、正しいと思われる着陸側だけをお示ししております。

離陸回数については、着陸した側と反対側に飛んでいくという考えの下、一番下の米印に書いてありますが、千歳側の離陸回数は苫小牧側の着陸回数とほぼ同数と推計されるであろうということで、離陸回数でいくと千歳側から6,400回、苫小牧側から約2万1,600回であったということで推計しているところがございます。

令和2年度航空機騒音に関する一連の説明につきましては、以上のとおりです。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、続きまして、（3）住宅防音対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、続きまして、資料3をご覧ください。6ページになります。

住宅防音対策の進捗状況等ということで、令和2年度の実績等についてご説明をさせていただきます。

上の表の太枠で囲われました苫小牧市の分をご覧くださいいただければと思います。

表の中の数字につきましては、高齢者優先枠を含めた数字となります。左側、意向調査を提出していただいた方の件数が、一般住宅で277件、世帯数で284世帯、集合住宅で8件、81世帯、合計285件、365世帯となっております。

工事の実績がその右側になります。一昨年度の令和元年度までの間に、一般世帯では85件、85世帯、集合住宅では2件、32世帯、合計で87件、117世帯の工事が行われてきたというところがございます。

令和2年度の実績につきましては、一般世帯のみ、6件、7世帯を工事いたしました。そのうち、うち繰越分という部分がございますが、こちらは、令和元年度から繰り越して

令和2年度に工事した分となり、それが1件、1世帯となります。

令和3年の計画数を見ていただきまして、今年度につきましては、一般世帯で20件、22世帯の工事を予定しております。昨年は6件、7世帯だったところが今年度は20件、22世帯ということで、昨年度につきましては、やはり、新型コロナウイルス感染症の影響で、工事の順番が来ていたのですけれども、業者が入るのも困るということで、翌年度の今年に繰り越された方が多数おりました。件数でいいますと6件、7世帯の方が今年度に繰り越しをしております。その分を加えて、20件、22世帯となり、昨年度より多い数字となっております。

一番右を見ていただきまして、合計の欄がございます。上から一般住宅で111件、114世帯、集合住宅で2件、32世帯、そして、合計113件、146世帯というところであり、全体としまして、進捗率は件数で39.6%、世帯数で40.0%と、今年度終了時にちょうど4割に到達するというところでございます。

今年度、20件、22世帯の工事を予定しておりますが、もう10月まで来ましたので、工事がどれだけ着工されたかをお知らせいたします。

20件のうち17件、22世帯のうち19世帯につきまして、工事が着工しているということでございます。今年、ちょっと多めの件数をこなしているというような状況でございます。

一番下の右側をご覧ください。両市の合計の実施率につきましては、件数で33.6%、世帯数で34.6%というところでございまして、全体的には3分の1ぐらい、苫小牧市の部分がちょうど40%、4割というところで、苫小牧市のほうが早いというような状況になっております。

次に、2番の表をご覧ください。

高齢者優先枠の令和2年度の実績等についてです。

昨年度から、正確には令和元年度から、高齢者優先枠の取組を進めております。

令和3年度から令和6年度までの計画数ということで、工事实績は、まず、令和2年度に1件、1世帯あったところですが、令和3年度は6件、6世帯を予定しており、令和6年以降までの間に、合わせて15件、15世帯の工事を優先的に実施するというような形で進めております。

7ページをご覧ください。

令和3年度に現地調査をしている件数を示しております。

第1次、4月19日から始まりまして、本来であれば、ここは毎月、月末に行っているのですが、今年、緊急事態宣言等が出たということで、5月、6月はやはり敬遠される方も多く、一時、現地調査を見合わせており、7月から再開しております。今後、12月3日までの第6次までを予定しておりまして、一般住宅17件、集合住宅1件、合計18件を現地調査する予定でおります。

その下をご覧ください。

住宅防音工事の流れといたしまして、これまでも工事をどのように進めていくかということをお我々ご説明してきたつもりでございますが、今年、世話人会の中で、その部分が若干浸透していない部分があるのではないかとのご意見をいただいたことから、改めてお知らせさせていただいたところです。

住宅防音工事を実施する前の年の3月頃に、候補住宅の通知書を送らせていただいております。そして、4月から現地調査を行いまして、その年度内に設計・設計審査を行い、翌年度の4月から工事を実施するというので、2年間にわたって工事をするようなつくりになっております。

一番下の部分に米印が二つございますが、うちは一体いつになるのか気にされている方も多いというご意見をいただいたのですけれども、工事につきましては、評価点をつけて順位付けをしております。騒音の影響が一番大きい地域ですとか、障がいを持たれている方ですとか、高齢の方、乳幼児が住んでいる方ですとか、工事として簡単に進められる内窓や冷房装置の設置工事のみを希望する方については点数を加点して優先順位をつけております。これに基づいて、順番がおおむね決まっておりますので、うちはいつぐらいになるのかということに気がなる方がいらっしゃいましたら、そこに書いてありますけれども、新千歳空港周辺環境整備財団までお問合せをいただければと思います。お問合せいただきましたら、大体何番ぐらいですので、今の進み具合だったら何年後ぐらいになりますということをお知らせさせていただいておりますので、周りにそういう方がいらっしゃいましたら、お知らせいただければと思います。

最後に参考としておりますが、今お話ししました財団の組織となっております。

基本的には昨年度と変わっていないのですが、事務局の部分の一番下の主査等⑤ということで、昨年度までは、主査5名のうち千歳市のOB2名を配置していたところですが、今年度については、OBの都合がつかないということがございまして、市OB1名減という形になっております。住宅防音工事に係る審査体制に影響が出るということでは困りますので、その分について工事の進捗に影響を及ぼさないよう新たに主事を1名配置しまして、これまでと同じく9名体制を組んで進めているというところでございます。

住宅防音対策につきましては、以上となります。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。

E委員、お願いします。

●E委員 たしか、この協議会は延期になったんですね。その前にうちの地域でこの防音工事のことで論議いたしました。その節は、ここの7ページの真ん中の関係がよく出ておりましたね、今日、財団の皆さんにちょっとお聞きしたいんですが、この問合せ件数というのが何件あったか、それで、よく理解してもらえたかどうか。こういうことも町内でそれなりに各委員さんをお願いしたわけございまして、ちょっとご報告いただきたいんですが、いかがでしょうか。

●新千歳空港周辺環境整備財団（事務局長） 今、委員のほうからご質問のございました住民の皆様からの照会でございますけれども、この文書につきましては、まず、今日、皆様に見ていただいているということで、住民の皆様にご直接郵送ということは今のところしておりません。我々としては、皆さんに見ていただいて、皆さんからも、気になる方にこの図を見せていただいて、どんどん財団に照会をしていただきたい、そのお手伝いを皆さんにお願いしたいということで考えてございました。

普段のお問合せの状況をお話しさせていただきますと、多い日で1日5件から6件ほど、順番がどうなっているかですとか、千歳の皆様を含めましてですけれども、お電話を頂戴しますので、我々としても、大体、順位が何番ぐらいで、何番ぐらいまで終わっております、年間何件やっておりますので、単純に割り返しますと、あと何年ぐらいですというようなお話をさせていただきます。どうしても、かなり先になりますとか、また、工事内容のご相談もいただいておりますので、この工事はちょっと難しいですということをお申し上げますと、なかなかご納得いただけないケースも多々ございますけれども、我々も、かなり工事内容が難しいものですから、それについては、分かるまで、場合によっては来ていただいたりということで、誠心誠意ご説明させていただきたいと思っております。

ですから、ぜひとも、このフロー図、今回初めて皆さんにお示しさせていただきましたので、地元のほうに持ち帰っていただいて、どんどん財団のほうに、分からないことがあれば何でも聞いてみてくださいと言っておいただければと思います。

よろしくお願ひいたします。

●E委員 私が申し上げたのは、8月だったかな、地域で論議したときにね、そのときにこういうことを各委員にお願いしたものですから、今言われたように、もう事前に財団に問い合わせしてほしいということをお申し上げたのですよね。

それで、今年の4月の総会で結構このことがあったものですからね、それで、今、何かこちらのほうから問合せがあったかどうかの確認です。総合的に4件から5件、6件あるということですから、その中にあるかも分かりません。どうかひとつ丁寧なご説明をお願いしたいと思っています。

よろしくお願ひします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苫小牧市（まちづくり推進室長） それでは、続きまして、（4）地域振興対策の進捗状況等についてを議題といたします。

北海道と苫小牧市から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、続きまして、資料4-1、8ページをご覧ください。

地域振興対策の進捗状況等についてということでご説明をさせていただきます。

既にご承知の部分もあると存じますが、おさらいも兼ねまして、表の上から全て説明させていただきます。

まず、植苗地区の道営住宅の整備についてでございます。植苗地区の星ヶ丘団地内に道営住宅を整備するというものでございます。

現在、第1期、第2期まで整備が終了し、1期、2期とも8戸全て入居いただいております。16戸満室という状況になっております。

3期目の整備につきましては、2棟7戸を整備するとしておりまして、一昨年の地域協議会においてご要望いただきましたとおり、3LDKを増やし、3LDK5戸、2LDK2戸ということで、全体の3期目の数としては1戸減ってしまうのですが、今年度、7戸を整備しております。この部分は、後ほど、次の資料4-2でご説明いたします。

また、今年整備しております7戸のうち2戸を特定目的住宅ということにいたしまして、小学生以下、同居世帯向けということで条件をつけて募集するというような形となっております。

続きまして、その下、道の駅関連施設の整備については、平成31年3月にウトナイ湖を望む展望デッキが供用開始となっております。

続きまして、冷暖房機器の設置につきましては、令和2年度まで40件を実施しているところでございます。

令和3年度につきましては、13件の設置を計画しているところでございます。

その下になります。住宅建設が可能となる区域拡大については、植苗星ヶ丘地区の地区計画策定ということで、こちらは、先ほど説明いたしました道営住宅の建設に関連しまして、平成28年11月に地区計画の告示を行ったところでございます。

続きまして、沼ノ端地区についてです。

複合施設の整備につきましては、平成30年10月に沼ノ端交流センターが供用開始となっております。

続きまして、文化交流施設の整備です。沼ノ端地区に新たな文化情報を発信する拠点施設としまして、図書機能と地域福祉の拠点機能を併せ持った文化交流サロンを整備するものでございます。本年6月に実施設計が終了いたしまして、9月から着工しているところでございます。詳細につきましては、後ほど、資料4-3において苫小牧市のほうから説明をいただきます。

最後、勇払地区になります。

総合福祉会館の整備ということで、平成29年12月に供用開始をしているところでございます。

次に、9ページの資料4-2をご覧ください。

道営住宅、第3期目の整備状況についてご説明いたします。

まずはじめに、整備状況ということで、表をご覧ください。

本年5月から本体工事を着工しております。

入居者の募集につきましては、本日の資料の一番下にチラシとリーフレットを配付しております。こういったチラシを作りまして、既に9月から、いろいろなところでPRをしている状況でございます。

今回、募集をするに当たりまして、会長等とご相談をさせていただきまして、やはり外から人を呼び寄せるような、移住を主にPRしていくべきではないかというようなお話もいただきましたので、移住希望者向けのオンラインセミナー等を行いまして、PRをしております。こちらにつきましては、11月、東京のほうで行われます移住フェア等もございまして、苫小牧市とも連携をさせていただいてのPRを考えております。

そのような中、入居者の募集、「11月～(予定)」と記載しておりますが、11月末から正式な募集を行うことを考えております。ですので、その募集に向けて、今、事前のPRを各方面で行っていきこうということです。来週には、市の広報誌にも公募のための広告が掲載されるというふうになっております。

今後、このチラシ、リーフレットにつきましては、市内の子育て世代が集まるような施設ですとか、先ほどもお話ししました東京の有楽町にあります道の移住定住推進センターというところにもPRをさせていただこうと考えております。

また、その募集につきましては、できるだけ子育て世代に入居してもらいたいということがありますので、公募期間を通常よりも長く設けることとしております。

これは、道の建設部局と相談いたしまして、通常、道営住宅の募集は1週間程度で終わってしまうのですが、今回は、少し余裕を持たせて、異例の3週間の長さで募集をするという形にしております。

ぜひ、市の広報誌等をご覧いただきまして、皆様におかれましても、近親者の方や身近な方にも、広くお声かけをいただければと思います。

このチラシにつきましては、会長のご協力もありまして、植苗町内会連合会にも配っていただくということとさせていただいておりますので、もし、他に配れるところがございましたら、お声かけをいただければと思っております。

資料4-2に戻っていただきまして、完成につきましては、令和4年3月を予定しており、その後、入居開始は今のところ3月上旬を予定しております。

なお、資料の下段に、工事は既に大分進んでおりますので、もうご覧になった方も多いかと思いますけれども、第3期の工事の場所ですとか、3LDKと2LDKの間取り等も載せておりますので、ご参考にしていただければと思います。

道からの説明は以上になります。

●苫小牧市(空港政策課長) 私のほうからは、(仮称)沼ノ端鉄南地区文化交流サロン整備事業につきまして、補足の説明をさせていただきたいと思っております。

10ページの資料4-3をご覧ください。

はじめに、本施設の概要でございますが、子ども向けの絵本などを充実させた特色のあ

る図書機能に加えまして、高齢者や障がいのある方、子どもなどが集う、誰もが自由に利用できる地域の福祉拠点を整備いたします。

次に、福祉拠点としての取組案につきましては、障がいのある方や若者の就労機会の体験の場として活用するなど、社会参加に向けた支援や多世代が参加できるイベントの実施など、高齢者、子ども、障がいの有無にかかわらず、支え合いながら安心して生活することができる仕組みづくりを考えているところでございます。

次に、下の平面図でございますけれども、建物の入り口は、北東側となり、図面の右上となっております。その西側、左側にラウンジと、南側には多目的ホール、そして、中央部分には図書スペースがありまして、またその西側には絵本ホールとパブリックスペースというものを配置してございます。

最後に、整備のスケジュールにつきましては、既に9月から工事を着工しておりまして、令和4年12月の供用開始を目指して取組を進めているところでございます。

私からの説明は、以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、続きまして、（5）新千歳空港周辺地域振興基金についてを議題といたします。

北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） では、11ページの資料5をご覧ください。新千歳空港周辺地域振興基金につきましてご説明をさせていただきます。

まず、基金の概要についてであります。これは、6枠の合意をいただきました後、基金を積み立てて地域振興対策をやっていくということで、造成目標額を30億円とさせていただいているところです。

令和元年度末の造成済額は、19億5,810万円となっております。令和2年度に3社から90万円のご寄附をいただきまして、2年度末の造成済み額は19億5,900万円となっているところでございます。

今回の30枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされております企業を中心に基金造成への協力要請を約70社にお願いしてまいりました。

その結果といたしまして、17社から総額1億1,680万円の寄附の表明をいただいたところでございます。

これまでご寄附いただいた企業につきましては、その下の表に載せさせていただいております。ご寄附いただいた会社のうち、公表して構わない企業だけを載せさせていただいております。

昨年度からになりますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もございまして、企業

等に対する個別の協力要請につきましては、今、景気もあまりよくない、企業状況もよろしくないという部分がありまして、現在、中断をしているところでございます。

今後、感染状況ですとか社会情勢を見ながら、経済界等とも相談いたしまして、また基金確保のために寄附の要請を行っていきたいと思っているところでございます。

また、基金の造成目標額の未達成分につきましては、道から毎年1.5%の金利見合い、約1,500万円を補助させていただいております、財団から町内会等への配分につきましては、これまでと同程度を確保させていただいているところでございます。

基金に関する説明につきましては、以上となります。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、続きまして、（6）苦小牧市植苗・美沢地区土地利用計画の次期計画策定についてを議題といたします。

苦小牧市から説明いたします。

●苦小牧市（空港政策課長） それでは、12ページの資料6をご覧ください。

平成12年に策定いたしました苦小牧市植苗・美沢地区土地利用計画につきましては、計画期間終了の時期を迎えたため、計画の概要や今後の方向性などにつきましてご説明をいたします。

はじめに、1の計画の概要につきましては、新千歳空港周辺地域の開発推進を念頭に置き、植苗・美沢地区の活性化に向けた段階的な地域づくりを目的として策定いたしました。

前期・後期各10年、合わせて約20年間にわたる全体の土地利用や地域振興策について示した内容となっております。

次に、2のこれまでの経過でございますが、計画策定後、平成23年4月に後期計画の修正をしておき、本協議会におきましても、都度、進捗状況等の報告を行ってまいりました。

また、今年に入りましては、植苗・美沢エアカーゴ対策委員会におきまして、後期計画検証結果の素案をご説明し、ご意見などをいただいたほか、本計画に関しまして、地域の方々との意見交換をさせていただいているところでございます。

次に、3の計画の検証でございますが、計画内容につきましては、各事業の取組状況をもとに、達成度を総合的に判断した上で課題を抽出するなど、地域の方々のご意見を踏まえながら検証を行っております。

その後につきましては、意見交換等の結果を受けまして、地域の方々のご理解を得た上で検証結果を取りまとめたいと考えてございます。

最後に、4の今後の方向性につきましては、今後も継続が必要な事業に加えまして、地



域課題や要望などを踏まえた上で、地域の方々や関係機関と連携を図りながら、次期計画を策定してまいりたいと考えております。

また、計画期間につきましては、時代の変化に柔軟に対応することができるよう、おおむね10年程度の中短期的な期間設定にしたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、最後に、（7）その他を議題といたします。

北海道から何かございますでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 特にありません。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、本日の議題は全て終了となりますが、委員の皆様方から、ほかに質問をお受けしたいと思っております。

G委員、お願いします。

●G委員 項目で説明すると時間がかかると思いましたから、その他で質問をさせていただきます。何点かございます。

まず、北海道エアポートさんです。

民営化になって、口頭で言われましたけれども、まず、2次交通、地域共生。ぜひ、せつかくの協議会に、進んだ状況も文書で出してほしいなと思っております。

それと、我々で言う、前の空整協のお金の問題です。

各町内に200万円以内でいろんな準備をしてくださいという問題がありました。それで認められれば、購入したものは町内で立て替えておいてくださいということが去年の段階でありました。今年はどうなっていくか分かりませんが、これは、各町内にそういう財源があるところはできるけれども、そうでないところは、要望したくてもできない考えであります。これは、以前、苦小牧市のほうで調整しながらやっていたものだなと私は感じておるんです。うちの5町内でも手を挙げたい町内はあっても、その財源がなくて、できない。これは、去年の話ですから、今年、少しは変わっているかもしれません。まず、こういう不公平なやり方は、あまりいいやり方じゃないのかなと思っております。これが、まず一つ目。

次に、住宅防音工事です。

おそらく、苦小牧の地域振興策は、割合は示されていませんけれども、私の考えでは、7割近くはもう北海道さんにやっていただいたのかなと思っております。植苗の道営住宅も、最後、4期工事を残すだけになっているのかもしれない。

しかし、この防音工事、4割、千歳よりやっていると言いますけれども、我々が認めた

とき、枠数、地域振興策、防音工事、これを同時にやっていくというのがお願いであり、調印した合意内容であります。まだまだ少ないスピードです。

今、財団の方がああいうふうには回答されましたけれども、今年はそういう対応になっているのかもしれませんが、今まで地域から問い合わせたとき、「いつになるか、お宅のなんか分からないよ」と、「何年後、いや、そんなの今は答えられない、分からない」という回答が圧倒的でございました。高齢者優先枠と言いますけれども、それも認めてもらえなくてお亡くなりになった方もあるわけなんです。その理由としては、設計が間に合わない。2年でやると課長さんが言いましたけれども、そういう事態でありました。少しは改善されているのかもしれませんが、私にしては、非常にスピード感がない行政だなと思っております。

財団の方が先ほど言いましたけれども、今年は、少しはそういう対応していただいているのかもしれませんが。難しい案件はいずれやらなきゃならないんです。だから、それを積極的にやっていただかないと、地域はやはり、北海道に不信感、この航空行政全体に不信感を抱く結果になるのかなと思っております。

世界中で猛威を振るっている感染症の対応に苦慮されているのは我々もそうです。けれども、それと決めたこととはまた別な話です。だから、北海道エアポートさんのスピード感のなさ、この防音工事の道庁さんのスピード感のなさ、何とかもう少し、地域振興策は非常に積極的にやっていただいていますから、全てとは言いませんが、私としては、非常に、地域からの代表として、もうちょっとやれるんじゃないかなという希望であります。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、北海道エアポートからお願いします。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） 2次交通のお話と地域共生に関するスタンスのお話でございました。

まず、2次交通でございます。

これは、先ほど私がお話ししました運営に関する協議会、自治体として苦小牧市、観光協会、経済界の皆さんが入っているミーティングがございまして、そこでもよくお話が出ます。私も非常に大事なものだと思っております。そういう中で、2次交通に関しては、JRさんとかバス事業者さんとかタクシー会社さん等々の動きもありますので、この辺は道庁並びに苦小牧市ともよく調整させていただきながら、私どもだけでは動けないところもございまして、連絡調整を図って進めていきたいと思っております。

道庁も、これに対しては、今、非常に前向きに、検討されておりますので、何とか解決に向けて図っていききたいと思っております。

それから、地域共生のお話でございます。

空整協、住宅防音対策のお話でございました。この周辺の皆様には、騒音でご迷惑をかけて、本当に申し訳なく思っております。最近、航空機のほうも大分消音化が進んだり、我々も、着陸料の中で騒音関係を少し高く設定してございまして、事業者としていろいろ対策を取っているところでございます。

あと、防音対策については、やはり道庁、それから、苫小牧市ともよくコミュニケーションを図りながら、皆さんにとってよりよくなるように努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 北海道、お願いします。

●北海道（空港戦略担当局長） ご質問、どうもありがとうございます。

住宅防音工事の關係に絞ってお答えさせていただきますけれども、新千歳空港の深夜・早朝便の運航につきましては、航空機騒音の影響を受けます空港周辺地域にお住まいの皆様のご理解とご協力があつて成り立っているものと考えております。

今回、30枠に拡大したということで、その關係で、航路下に住まわれる地域住民の皆様の新たな負担というものを可能な限り軽減するために実施するというをお約束しているものでありまして、これは確実に実施していかなければならないと思っております。

昨年は、コロナの影響もあつて工事件数が減少したということはあるのですが、道といたしましては、今後も、本日いただきましたご意見などを十分に踏まえまして、改めて、苫小牧市、財団としっかり連携して、計画的に、より多く工事に着手できるように頑張っていきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 以上が回答になりますが、はい。

●G委員 北海道エアポートさんは何か勘違いしているかもしれませんが、空整協と言つたのは、地域の町内に200万円以内で要望がありましたらというのは、防音工事のことじゃないんですよ。町内のそういういろんな要望を受け……

●苫小牧市（まちづくり推進室長） 助成事業の話でいいですか。

●G委員 そうです、そうです。

それを認めるよとなつたとき、町内でお金を立て替えておいてください、後からお支払いしますというのが去年のやり方なんです。それだと、その町内に資金があれば、そういう立て替えなんていうことはできるのかもしれませんが、それはやはり、うちの町内は五つありますけれども、町内で預金がある町内もありますし、ない町内もあります。そういうやり方はいかかなものかなということなのです。

前は、苫小牧市さんが調整しながらやつたのかなと思うのです、各町内から要望を受け付けて。今回も、南町内会は決まって、やられると思うんです。でも、ほかの町内でもこういうものをやりたいと言うけれども、立て替え払いするだけの町内の預金がなければできませんのでね。それで、200万円以内で要望がありましたらといつても、これはやはり、どこの町内でもできる話ではないんですよ。

だから、こういうやり方は決していいやり方ではないんで。去年の段階ですよ。だから、今年度はちょっと変わつているのかもしれませんが。南町内会は、北海道エアポートさんに認められて、中身は聞いていますけれども、こういうものはやつてもらえることになりましたというご報告は受けています。ただ、これは、うちの南は、それなりの立て替えをす

るかどうかわかりませんよ。だから、こういうやり方はいかなものかなと思ってご質問したんですよ。

●北海道エアポート株式会社（地域共生課長） ご質問のご回答をさせていただきます。

今年度の助成事業につきましては、まず、200万円以下の助成につきましては、町内会のほうで調達をしていただくと。それで、やり方としましては、例えば、町内会で実施される分、これをまずプールをしておいていただいて、事業が終わった時点で、助成金額を町内会のほうに振り込ませていただいて、そこから業者にお支払いをしていただくという形で助成事業を始めました。

やはり、そこは、苫小牧市からも、町内会の負担等があるということで、弊社としましては、来年度からは、助成の申請があった物品については、弊社のほうで調達をさせていただいて、町内会のほうに物を届けると。それで、後日、それが終わりましたら、町内会の負担の金額の部分だけを弊社のほうに振り込んでいただくという形で、従来の空港支援機構が実施していた形に変更させていただきましたので、そこはご理解いただければと思います。

●苫小牧市（まちづくり推進室長） あと、先ほど、窓口というお話がございましたけれども、それは引き続き市のほうで、北海道エアポートと地域との間には市が入って調整させていただきますので、よろしくをお願いします。

●G委員 今回の北海道エアポートさん、また、室長さんの話は、これは去年の段階で言ってほしかったんですよ。町内では、今、美沢の会長が納得できないと。あそこもいろいろ助成事業をしてほしかったけれども、これじゃうちの町内会はできないよということで、手も挙げられませんでした。

室長さんの言うように、苫小牧市が一度窓口になりますって最初からそう言っていただければ、こういう質問は一切する必要もないわけなんです。そこら辺が、地域で悩んでいることを、今、私がこの会議で言う何ものでもないんだけど、こういうやり方は、各町内会に公平なやり方じゃないんで、直してほしくて言っているわけです。本当は、今年から率先してやってほしかったなという感じであります。非常に、北海道エアポートさんには大変失礼かもしれないけれども、これは不信感を抱くだけです。苫小牧市の室長さんにも、去年の段階でこれを言っていただければ、こういう誤解を招くことはあり得ないわけなんです。こんな会議の場で言う何ものでもないんですけども、でも、直していただかなければ、5つの町内から、要望はうちだってあったんだよという声はたくさん僕は聞いていましたから、それをできないというのは、平等じゃないなということで申し上げました。

●北海道エアポート株式会社（地域共生部長） どうもありがとうございました。

本当に配慮が足りなかったということで、申し訳なく思っております。申し訳ございませんでした。今度から、しっかり、やりやすい形でやっていくようにいたしますので、何かご理解いただければと思っております。

ご迷惑をおかけしました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

H委員、お願いします。

●H委員 今日、北海道のほうからも来ていただけているので、1点お聞きしたいのは、先ほどから、2次交通ということでお話が出ていましたけれども、JRのことでお聞きをしたいんですが、JRの新千歳空港駅、以前は南進と言っていたんですけれども、今、スルー化ということで、苦小牧市のほうでは最重点要望事項ということで掲げて要望しているんですけれども、北海道さんのほうの動きというのがちょっと分からないのですけれども、ご紹介いただければと思います。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 北海道からよろしいでしょうか。

●北海道（交通企画監） スルー化につきましては、JRの長期ビジョンの中で実は打ち出しておりまして、我々としては、JR問題、これの提言書というものを国に対して出した際に、このスルー化についても実現していただきたいということで、そこに加えまして、それを国のほうに今、要望しておる段階です。

これにつきましては、まだ構想段階なものですから、それぞれの事業主体が勉強しているという段階でございますので、これがある程度進むような段階になりましたら、また皆さんにご報告させていただくということになると思いますので、ご勘弁いただきたいと思っております。

●H委員 ありがとうございます。

JRさんのマターなのかなというふうにも聞こえるんですけれども、空港を利用する側、また、空港から降りて旅行する側にしてみましても、南千歳駅での乗り換えというのは非常にハードルが高いんです。我々が苦小牧から空港に行くときに、JRって、なかなか選択肢に上らないんですよ。乗り換えがあって時間が読めないというところもありますんで、どうしてもJRを使わないと。逆にいうと、旅行者の方もJRを使って胆振方面とか日高とか、あるいは道東のほうとかというのは、長い計画を立てている方はあるかもしれないんですけれども、なかなか選択肢として選びづらいというのは、今のデッドエンドで詰まったような線路だと、なかなか開けていかないなというふうに思っています。ぜひ、できるだけ、1段でも2段でも高く取り上げていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 要望ということでよろしいですか。

●H委員 はい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、ほかにございますでしょうか。

I委員、お願いします。

●I委員 先ほどから黙って聞いているとね、植苗、美沢という名前だけは立派に聞こえますけれども、滑走路においても、何においても、全てに美沢でしょう。

しかしながら、集落の中はどのようなふうになっていますか。今、もう我々の中にはね、8軒しかいないんですよ。その中でね、年間の会費を4,000円集めて、3万何ぼしか入ってくるお金がないんですよ。少し、集落の中がどのようなふうになっているか、調べてください、皆さん。それでいて、あれだけの飛行機が飛んでいて、我々のところなんか、頭の上を飛んでいますよ。これから外国の飛行機が入ってきたら、まだまだひどくなりますよ。

そして、先ほど言った200万の中で、利息を、あと残りの20%を出してくださいと。我々が注文したって、いまだに来ませんよ。何とかみんなして借金してでもやろうかと計画立てているのに、品物届かないじゃないですか、1か月以上経っても。そんなお金なんか一銭もありませんよ。

美沢、植苗って立派に書いていただくけれども、恥ずかしくてね、ここへなんか出てこられませんよ。会館建ててもね、電気一つついてないんですよ。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 助成事業の関係でよろしいでしょうか。

●I委員 いや、何の関係でもいいんだけど、一銭もないところからどうして取っていきけるの。借金してまでやらなきゃならないんですよ。たった3万何ぼの町内会費で、それでやってるんですからね。それで立派に美沢だとか植苗美沢なんてこうやって書かれても、こっぴどくしくて、ここにいられません。

●苦小牧市（空港政策課長） 助成事業につきましては、令和4年度事業ということで、美沢の町内会のほうからも申請が上がっています。事業自体は来年度になります。たしか、草刈り機ですとかを要望されて、申請書も我々は受け取っておりますので、それを北海道エアポートに渡している最中です。

事業自体は令和4年度ですので、来年の4月以降に認められれば現物支給で美沢町内会のほうに支給され、そして、20%分を請求させていただくというような流れになっておりますので、ひとつご理解をお願いします。

●I委員 来年になるということを行っているのかい。今年でなくてかい。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 今後、お伺いさせて、調整させていただきますので、よろしく願いいたします。

●I委員 いいかげんにしてくれよ、本当に。ばかにしてるんじゃない。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、協議会の閉会に当たりまして、交通企画監からご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 長時間にわたり、ありがとうございます。

今日、皆様いただきましたご意見、しっかり丁寧に、また迅速に対応させていただきたいと思いますので、これからもご指導をよろしくお願いいたします。

また、新千歳空港の活性化に向けて、我々も段階的な拡大に向けた取組をしっかりとやることで、この周辺の活性化にもつなげてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日は、どうもありがとうございました。

●苦小牧市（まちづくり推進室長） 続きまして、副市長からご挨拶を申し上げます。

●苦小牧市（副市長） 本日は、長時間にわたりまして、ありがとうございました。

本日の協議結果を踏まえまして、ご報告申し上げました住宅防音対策、地域振興対策につきまして、道、財団と連携しながらしっかりと進めてまいります。

市に対するご指摘もございました。そこにつきましては、しっかりと対処させますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になりますが、委員の皆様には、これまでも大変なご負担をおかけしてきたところでございます。引き続きのご理解、ご協力を心からお願ひ申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

#### 4. 閉 会

●苦小牧市（まちづくり推進室長） それでは、以上をもちまして、第51回新千歳空港の24時間運用に関する苦小牧市地域協議会を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上